

# とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	ウィズブック保育園天王洲
所在地	品川区東品川2-5-5ハーバーワンビル1階

## 1 活動のテーマ

「プログラミング」

＜テーマの設定理由＞

（園の環境や強み）園外への散歩や公園に出かける機会も多く、自然や地域に対して関心があります。散歩をしている中で地図やルートの考え方に興味を持ち始めていました。その中で「プログラミング思考」の体験を受け、より興味が広がってきました。

（子どもの興味関心があると判断した理由）地図を見比べることはなかなか経験をしたことがなく、世界の中に日本があり、日本の中に東京があり、その中の街の地図という段階的な思考に不思議さを感じている様子でした。連続性のある考え方や繋がりに関心を示している様子があり、そこから身近な音楽やリズムの活動も取り入れていきました。他にも日常の中で、そのような考え方に基づいた遊びや、ルールに基づいた社会のしくみを知るきっかけや探求ができるよう、本年度の5歳児のテーマを「プログラミング」としました。

## 2 活動スケジュール

【11～12月】＜地図を見てみよう＞  
「プログラミング思考とはどのようなものか」ということを講師と一緒に考えていきました。様々な大きさの地図（世界地図、日本地図、町の地図等）から自分の住んでいる地域を知り、スタート地点からどのように目的地に到着するかというルート選択をしながら探求心を広げていきました。

【12月】＜アート観察＞  
事前にルートを考えて散歩に行き、アートを探してみました。自分のマップを作ったり、見つけたアートの絵を実際に描いてみることから興味が広がりました。

【1月】＜芸術家になろう（折り紙編）＞  
「アート観察」から「芸術の街：天王洲」（自分たちの住んでいる地域）を感じ取り、自分たちでもアート作品を作ってみました。講師と一緒に考えながら切り紙の法則性（折る、切る、広げる、デザインする）を体験しながら感じ取っていきました。

【2～3月】＜音楽も芸術だ＞、＜振り返り＞  
「音楽も芸術」ということに気付き、拍子のリズムに連続性があること、みんなで合奏をする時も楽譜や図にして「見える化」することで順序があり、繰り返しを合わせることで音楽が成り立っていることを知っていきました。「どんなことが楽しかったか」「どんなことに気付くことができたか」などを、話し合いました。

## 3 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

※活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具

「プログラミング」の委託・講座費用、  
「町探検」で使用する探検ボード  
「折り紙」の活動で使用するスティック糊

## 4 探究活動の実践

### <活動の内容>

#### 【1期】

「プログラミング思考」について、子ども達と考えることから始めました。地図とルートを考える活動では、「世界の中のどこに住んでいるんだろう?」「買い物に行くときに、目印になるものはあるかな?右と左のどちらを向くのかな」など子ども達が順を追って行き先を探求していく意欲を持てるような問いかけをしていきました。

#### 【2期】

町探検の活動では、地図と照らし合わせ「どの道を通ったら近道なのかな」「お店の近くにある目印はどこなのかな」など位置感覚を体感したり、地図と実在の道が一致していることの答え合わせに楽しさを感じていました。

#### 【3期】

折り紙の活動では、「ここを折ったらどんな形ができるのかな」「広げてみたら大きさはどうなっているのかな」など多角的に物事を見ることに新鮮さや驚きを感じ、形に対しての倍数の捉え方に少しずつ気付く姿がありました。リズム遊びでは「音と数字(教え方)」の関係性や同じ素材でも音の変化があるかなど、子ども達の柔軟なつぼやぎが出てくるが増えていきました。

#### 【4期】

リズムの活動では、一定の法則の下に音楽が成り立っていることを、楽器作りやボディパーカッションで実践しながら理解を深めていきました。また、最後はグループごとに合わせることで、違うリズム同士を重ねると音楽の面白さが出てくるということにも気付いていました。

#### 【5期】

今までの活動を振り返り、子ども達と「楽しかった活動」や「プログラミングの考え方」について意見や感想、気付いたことなどを話し合いました。

### <活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>



## 5 振り返り

「プログラミング思考」という考え方が、日常の中に活用されているということに子ども達と一緒に気付くことができました。いくつかの身近な活動を通して、順序立てて物事を考える大切さを知ることが家庭とも共有できたことは、就学を前に貴重な体験となりました。5歳児の活動でしたが、園全体で共有し活動内容について気付きや意見交換をしたことは、職員にとっても学びの機会となったと感じます。